

2018年9月30日

## 福音書からのメッセージ

わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである。

(マルコによる福音書9章40節)

今日の箇所は、弟子の一人であるヨハネがイエス様に話しかける場面からスタートします。ゼベダイの子であるヨハネを、静かな人物だと思われている方も多いでしょう。しかしイエス様は、ヨハネのことを怒りっぽい奴だなあと感じていたようです。なぜならイエス様は彼とその兄弟ヤコブに、「雷の子」というあだ名をつけていたからです。

雷は突然、光ります。鼓膜が破れるほどの大きな音を立てます。突然頭に血が上り、カッとなって大声でまくしたてるヨハネの姿をイエス様は何度も見たのでしょう。ヨハネはイエス様に言います。「あなたの名前を使って悪霊を追い出している者を見ました」。そして続けます。「わたしたちに従わないので、やめさせようと思いました」。つまりイエス様の名前を使いたければ、イエス様の直弟子であるわたしたちに従うようにとヨハネは迫ったのでしょう。

イエス様が十字架につけられて2000年、教会は分裂を繰り返してきました。同じようにイエス様の名によって人々に語っているのに、これはダメだ、あれは受け入れられないとお互いを排除していく。そして自分たちの正当性を主張していくのです。ヨハネが「わたしたちに従え」と言ったのと同じことを何度も繰り返してきたのです。時代を超え、人を変えて、何度も何度もこの言葉が語られて、自分たちの思いだけが主張され、人が別れていく。

教会は何度もそのことを繰り返してきました。これは昔話なのでしょうか。今のわたしたちの教会ではどうでしょうか。わたしたちには自分たちが大事にしてきた



ことがあります。このスタイルのまましていると、心地いいです。とっても楽です。でも時々、自分たちの思いとは違う人たちがやってくることがあります。そのとき

に、わたしたちの思いに無理に従わせようとはしていないのでしょうか。わたしたちが理解できないことはすべて、やめさせようとはしていないのでしょうか。

イエス様はヨハネに言われます。「やめさせてはならない」、そして「わたしの名前を使ったすぐそのあとで、わたしのことを悪くなど言えるか?」と言われるのです。さらに続けられます。「わたしに逆らわない人はわたしたちの味方である」と。

味方として受け入れる。それがイエス様の姿勢なのではないのでしょうか。自分たちの正当性や弟子としての地位などどうでもいいのです。イエス様はこの後、ガリラヤを去り、十字架への道を進まれます。その最後に語られたこと、それはあなたたちも受け入れなさいということです。

わたしたち自身が、正当な弟子ではないかもしれない。しかしイエス様は味方として受け入れてくださるのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>